

柏原市内遺跡群発掘調査概報

平成17（2005）年度

平成19年（2007）3月

柏原市教育委員会



田辺廃寺 金堂跡出土壁土

はしがき

柏原市は全国でも屈指の遺跡が多い市です。しかし、一昨年国指定史跡にされてい
る田辺廃寺が盗掘されるという事件が起こりました。さらに、遺構の破壊及び遺物の
盗難が確認されました。今後、このような事が繰り返されない為にも、文化財の保護、
活用にいっそうの努力を傾けていきたいと思います。

今回、刊行する報告書の出土遺物、図面等は柏原市教育委員会で保管・管理してい
ます。広く活用されることを希望します。

最後になりましたが、調査に際して、ご協力、ご努力頂いた関係各方面的皆様には
厚くお礼申し上げます。今後もご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成19年3月

柏原市教育委員会
教育長 三浦 誠

例　　言

- 1、本書は柏原市教育委員会が平成17年度に実施した、柏原市遺跡群発掘調査概要報告書である。
- 2、調査は柏原市教育委員会社会教育課 石田成年、島内洋二を担当者として、平成17年4月1日に着手し、平成18年3月31日に終了した。
- 3、本書は、平成17年4月1日から平成18年3月31日までに着手した土木工事等に伴う事前発掘調査の概要とその他の調査の一覧を掲載した。なお、この期間内に文化財保護法第93条に基づく届出、通知のなされたものは207件、その中で発掘調査を実施したものは16件である。
- 4、本編の編集、執筆は島内が行なった。
- 5、調査、整理の参加者は次のとおりである。(順不同、敬称略)

有江マスミ 北野重 阪口文子 乃一敏恵 橋口紀子 分才隆司 安村俊史

目 次

平成 17 (2005) 年 柏原市内遺跡発掘調査一覧	
第1章 大県遺跡	1
2005-1次調査	2
第2章 大県南遺跡	3
2005-1次調査	4
2005-2次調査	4
2005-3次調査	5
第3章 大県南亮寺	6
2005-1次調査	7
第4章 太平寺遺跡	9
2005-1次調査	10
第5章 太平寺魔寺	11
2005-1次調査	12
2005-2次調査	12
第6章 安堂遺跡	13
2005-1次調査	14
2005-2次調査	14
2005-3次調査	15
2005-4次調査	15
2005-5次調査	16
2005-6次調査	16
第7章 田辺遺跡	17
2005-1次調査	18
2005-2次調査	18
付章 田辺魔寺	19
2005-1次調査	20

平成17(2005)年 柏原市内遺跡群発掘調査一覧

遺跡名 対象地(柏原市…)	調査次数	調査面積 対象面積	申請者 用途	調査日 (自・至)	文書番号 担当者	備考
大県 平野2-316	2005-1	4.00 128.69	個人 個人住宅	H17.8.22 H17.8.22	171-17 石田・島内	
大県南 太平寺2-569-1の一部他	2005-1	5.00 863.50	個人 共同住宅	H17.5.27 H17.5.27	171-13 石田・島内	提供重機
大県南 大県4-242-1/243-1	2005-2	4.00 664.41	個人 個人住宅	H17.9.15 H17.9.15	171-19 石田・島内	
大県南 大県4-247-4	2005-3	0.75 130.78	個人 個人住宅	H17.11.14 H17.11.14	171-22 石田・島内	提供重機
大県南廃寺 大県4-396-8の一部	2005-1	10.0 117.7	個人 個人住宅	H17.12.1 H17.12.2	171-25 石田・島内	提供重機
太平寺 太平寺2-539-1の一部他	2005-1	3.00 407.45	岡村製作所 店舗	H17.5.2 H17.5.2	171-10 石田・島内	提供重機
太平寺廃寺 太平寺2-361-5	2005-1	0.33 177.90	個人 個人住宅	H17.4.8 H17.4.8	171-9 石田・島内	提供重機
太平寺廃寺 太平寺2-361-1	2005-2	0.60 166.29	個人 個人住宅	H17.5.9 H17.5.9	171-11 石田・島内	提供重機
安堂 太平寺1-130-1/-6/-7	2005-1	4.00 4,516.41	セブンツーセブン 倉庫、事務所他	H17.6.21 H17.6.21	171-8 石田・島内	提供重機
安堂 安堂町926-1の1部/926-2	2005-2	4.00 786.66	個人 分譲住宅	H17.7.28 H17.7.28	171-15 石田・島内	提供重機
安堂 安堂町708-5/686-2他	2005-3	2.00 99.88	個人 個人住宅	H17.4.18 H17.8.30	171-6 石田・島内	提供重機
安堂 安堂町657-7	2005-4	2.00 86.58	個人 個人住宅	H17.9.21 H17.9.21	171-20 石田・島内	提供重機
安堂 安堂町289-2/291-2	2005-5	0.08 169.13	個人 個人住宅	H17.10.31 H17.10.31	171-23 石田・島内	
安堂 安堂町643	2005-6	3.75 384.81	個人 個人住宅	H17.11.4 H17.11.4	171-21 石田・島内	提供重機
田辺 田辺1-380-1/380-他	2005-1	6.00 1,936.47	竹弘鉄建 宅地造成	H17.7.5 H17.8.1	171-16 石田・島内	
田辺 田辺1-1116/1117-3	2005-2	2.25 434.57	個人 個人住宅	H18.3.9 H18.3.9	171-27 石田・島内	

(平成17年4月1日から平成18年3月31日までに実施した調査)

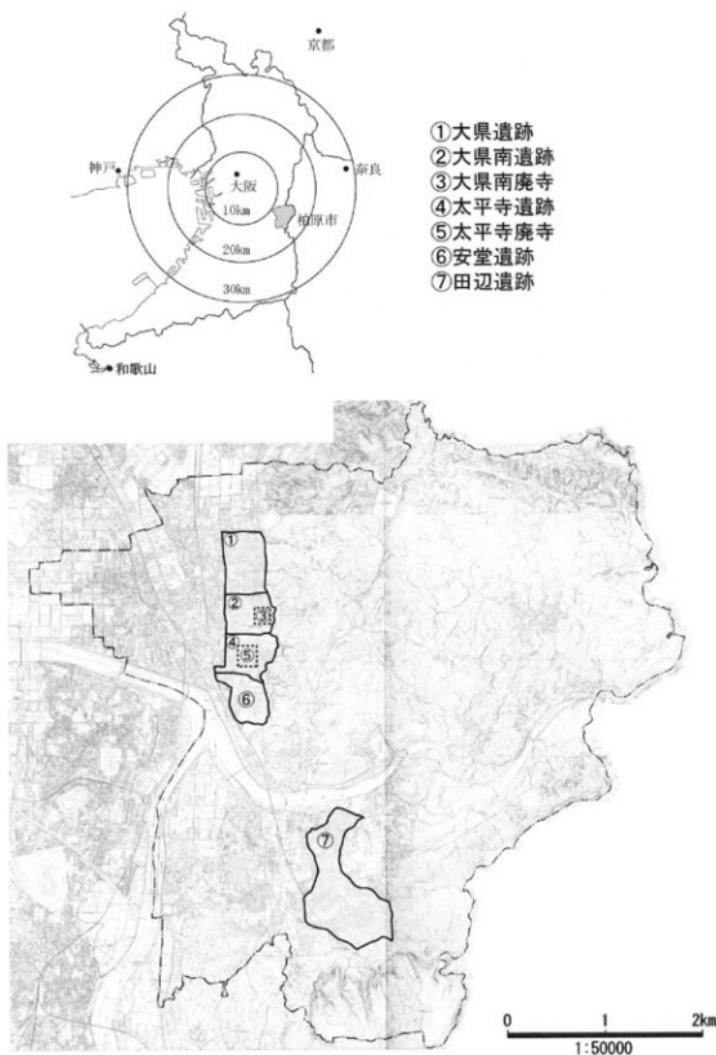


図1 平成17（2005）年度 発掘調査遺跡位置図

第1章 大県遺跡



図2 調査地位置図

2005-1次調査

- ・調査対象地 柏原市平野 2-316
- ・調査期間 平成 17 (2005) 年 8 月 22 日
- ・調査面積 $4.00 \text{ m}^2 / 128.69 \text{ m}^2$
- ・調査担当者 石田成年・島内洋二

対象地の北側に $2 \times 2 \text{ m}$ のトレンチを設定、基礎掘削深度まで調査を行った。地表面から約 40 cm 下で、30~50cm 大の石を多く含む地山起源の盛土を確認した。遺構・遺物は認められなかった。

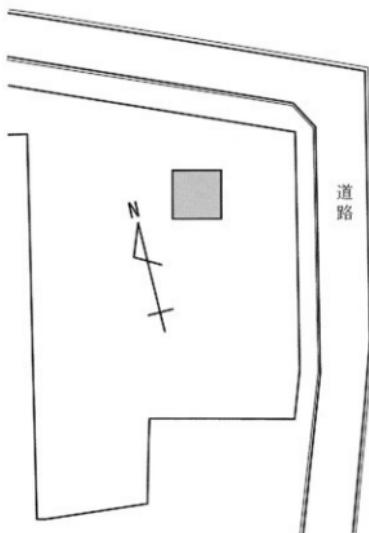


図 3 調査位置図 ($S=1/200$)

第2章 大県南遺跡



図4 調査地位置図

2005-1次調査

- ・調査対象地 柏原市太平寺2-569-1の一部、556の一部
- ・調査期間 平成17(2005)年5月27日
- ・調査面積 5.00 m²/863.50 m²
- ・調査担当者 石田成年・島内洋二

対象地の浄化槽設置予定地を重機により現地表下80cmまで掘削した。調査地は全て盛土である。上層から掘り込まれた現代の溝を検出したほかは、遺構・遺物ともに認められなかった。

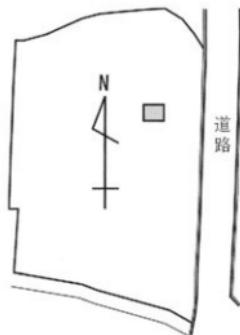


図5 調査位置図 (S=1/600)

2005-2次調査

- ・調査対象地 柏原市大県4-242-1/243-1
- ・調査期間 平成17(2005)年9月15日
- ・調査面積 4.00 m²/664.41 m²
- ・調査担当者 石田成年・島内洋二

対象地内に2.0×2.0mのトレンチを設定。基礎掘削深度である約30cm下まで掘削したが、遺構・遺物ともに認められなかつた。

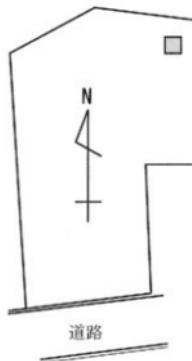


図6 調査位置図 (S=1/600)

2005-3次調査

- ・調査対象地 柏原市大県 4-247-4
- ・調査期間 平成 17 (2005) 年 11 月 14 日
- ・調査面積 0.75 m²/130.78 m²
- ・調査担当者 石田成年・島内洋二

対象地内に 1.5×0.5m のトレンチを設定。提供重機により地表面下約 0.8m まで掘削した。地表面下約 0.4m よりシルト層が最下層まで続き、最下層では湧水が著しかった。遺構・遺物とも認められなかった。

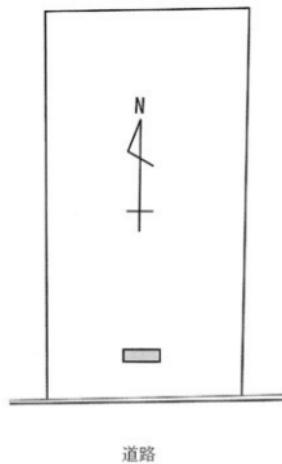


図 7 調査位置図 (S=1/200)

第3章 大県南廃寺



図8 調査地位置図

2005-1次調査

- ・調査対象地 柏原市大県4-396-8の一部
- ・調査期間 平成17(2005)年12月1日～2日
- ・調査面積 10.00 m²/117.70 m²
- ・調査担当者 石田成年・島内洋二

大県南廢寺は古瓦が出土する事などから古代寺院跡と推定されるが、礎石や遺構などは見つかっていない。しかし、近年の調査で「山下背川」と書かれた墨書き器が出土しており、河内六寺の一つ、山下寺である事が確実視される。

対象地内に3.0×2.0mのトレンチを設定し、提供重機により地表面より約0.5mまで掘削した。それより下層は基礎部掘削予定深度まで人力にて精査・調査を行った。

柱穴を検出したため、調査区を拡張（東側に1m²+南西部に3m²）して、範囲を確認した。東側に柱列が続く可能性もあるが、工事が遺構面に影響しない箇所のため未調査である。検出した石が礎石の可能性もあるが、現状では柱が消滅したちに入り込んだ状況しか判断しえなかつた。

柱穴1からは炭と焼け土が少量含まれていた。但し、壁面に火を受けたような形跡は見られなかつた。掘形からは、磨耗した土師器片が出土している。西半部からは遺構は検出されず、遺物もほとんど出土しなかつた。地表面下約0.8mで地山を確認した。

遺物は、時期を特定し得るものではないが若干出土している。1層からは、土師器片と瓦片が出土した。瓦片は桶巻き作りで、僅かに布目が残る。2層からは須恵器短頭壺片と磨耗した土師器が出土した。3層から布目の残る瓦片と須恵器・土師器片がある。しかし、いずれも磨耗が激しく流れ込んできたものと思われる。

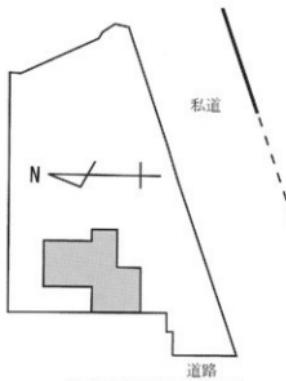


図9 調査位置図 (S=1/200)

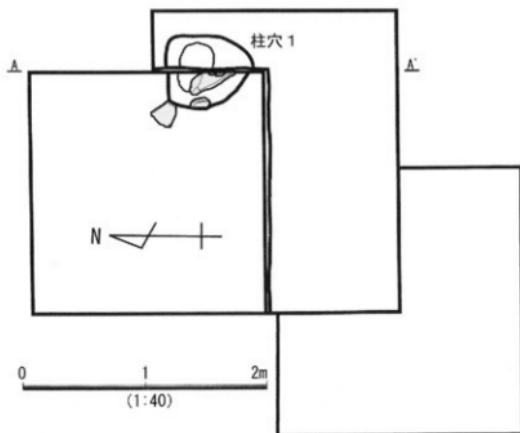
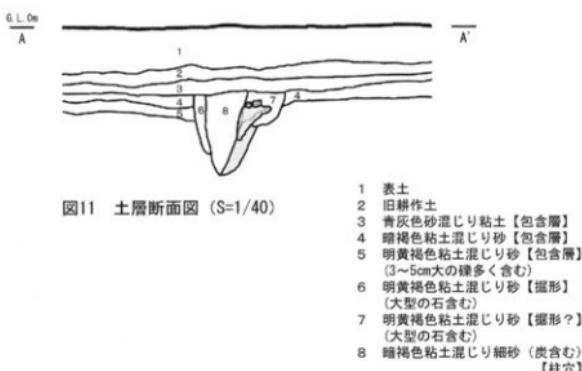


図10 調査区平面図 ($S=1/40$)



第4章 太平寺遺跡



図12 調査地位置図

2005-1次調査

- ・調査対象地 柏原市太平寺2-539-1の一部/-540-3
- ・調査期間 平成17(2005)年5月2日
- ・調査面積 3.00 m²/407.45 m²
- ・調査担当者 石田成年・島内洋二

対象地北部に1.5×2.0mの調査区を設定し、提供重機により掘削。人力にて精査現地表面より1.2m下まで掘削。すべて盛土で、遺構・遺物とも認められなかった。

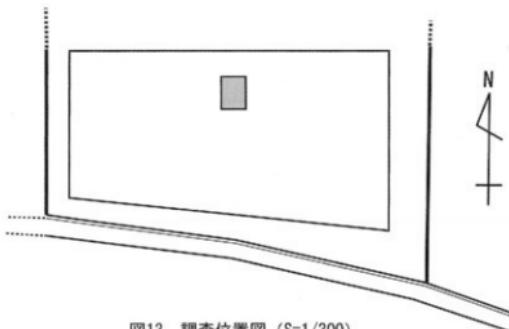


図13 調査位置図 (S=1/300)

第5章 太平寺廃寺



図14 調査地位置図

2005-1次調査

- ・調査対象地 柏原市太平寺 2-361-5
- ・調査期間 平成 17 (2005) 年 4 月 8 日
- ・調査面積 0.33 m²/177.90 m²
- ・調査担当者 石田成年・島内洋二

対象地内の浄化槽設置予定箇所に、1.1×0.3mの調査区を設定し、提供重機により掘削。その後、人力にて精査を行った。地表面下1.1mまで掘削したが、全て盛土であった。遺構・遺物ともに認められなかった。

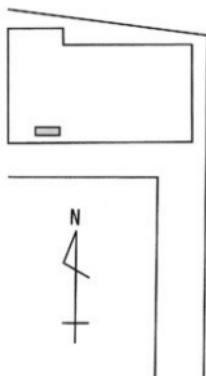


図15 調査位置図 (S=1/300)

2005-2次調査

- ・調査対象地 柏原市太平寺 2-361-1
- ・調査期間 平成 17 (2005) 年 5 月 9 日
- ・調査面積 0.60 m²/166.29 m²
- ・調査担当者 石田成年・島内洋二

対象地北部に1.2×0.5mの調査区を設定し、提供重機により掘削。地表面下1.0mまで掘削。すべて盛土で、遺構・遺物とも認められなかつた。

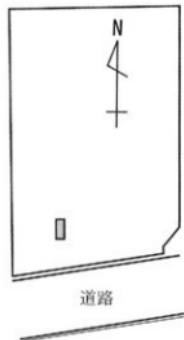


図16 調査位置図 (S=1/300)

第6章 安堂遺跡



図17 調査地位置図

2005-1次調査

- ・調査対象地 柏原市太平寺 1-130-1/-6/-7
- ・調査期間 平成17(2005)年6月21日
- ・調査面積 4.00 m²/4,516.41 m²
- ・調査担当者 石田成年・島内洋二

対象地中央に2.0×2.0mのトレーナーを設定し、掘削を行った。提供重機により、基礎掘削深度の地表面下1.8mまで掘削を行ったが、全て盛土であった。遺構・遺物ともに認められなかった。

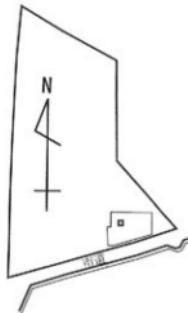


図18 調査位置図 (S=1/2000)

2005-2次調査

- ・調査対象地 柏原市安堂町 926-1 の1部/926-2
- ・調査期間 平成17(2005)年7月28日
- ・調査面積 4.00 m²/786.66 m²
- ・調査担当者 石田成年・島内洋二

対象地は近鉄安堂駅の東側に所在し、市道に面した場所に位置する。
対象地内に2.0×2.0mのトレーナーを設定し、掘削を行った。地表面下より2.0mまで掘削を行ったが、遺構・遺物ともに認められなかった。

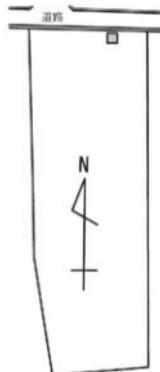


図19 調査位置図 (S=1/1000)

2005-3次調査

- ・調査対象地 柏原市安堂町 708-5/686-2/708-8/709-3
- ・調査期間 平成 17 (2005) 年 8 月 30 日
- ・調査面積 2.00 m²/99.88 m²
- ・調査担当者 石田成年・島内洋二

対象地内に 2.0×1.0m のトレンチを設定。浄化槽設置予定箇所を提供重機により掘削した。掘削予定深度である地表面下 1.6m まで調査を行った。安堂遺跡 2005-2 次調査地と同様に底部は青灰色の粘土層であった。谷地形の丘んだ地と思われ、遺構や遺物は認められなかった。

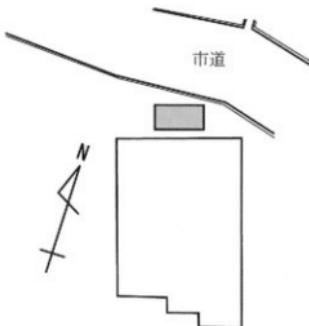


図20 調査位置図 (S=1/200)

2005-4次調査

- ・調査対象地 柏原市安堂町 657-7
- ・調査期間 平成 17 (2005) 年 9 月 21 日
- ・調査面積 2.00 m²/86.58 m²
- ・調査担当者 石田成年・島内洋二

対象地内に 2.0×1.0m のトレンチを設定。浄化槽設置予定箇所を提供重機により、地表面下約 1.4m まで掘削した。遺構・遺物とも認められなかつた。

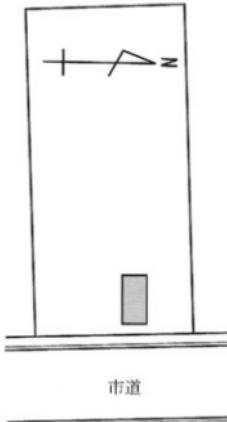


図21 調査位置図 (S=1/200)

2005-5次調査

- ・調査対象地 柏原市安堂町 289-2/291-2
- ・調査期間 平成 17 (2005) 年 10 月 31 日
- ・調査面積 $0.08 \text{ m}^2 / 169.13 \text{ m}^2$
- ・調査担当者 石田成年・島内洋二

対象地内に $0.4 \times 0.2 \text{m}$ のトレンチを設定。地表面下約 20cm まで掘削した。全て盛土で遺構・遺物とも認められなかつた。

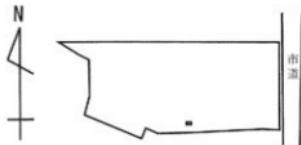


図22 調査位置図 ($S=1/400$)

2005-6次調査

- ・調査対象地 柏原市安堂町 643
- ・調査期間 平成 17 (2005) 年 11 月 4 日
- ・調査面積 $3.75 \text{ m}^2 / 384.81 \text{ m}^2$
- ・調査担当者 石田成年・島内洋二

対象地内の浄化槽設置予定箇所に $2.5 \times 1.5 \text{m}$ のトレンチを設定。提供重機により、地表面下約 2.0m まで掘削した。遺構・遺物とも認められなかつた。

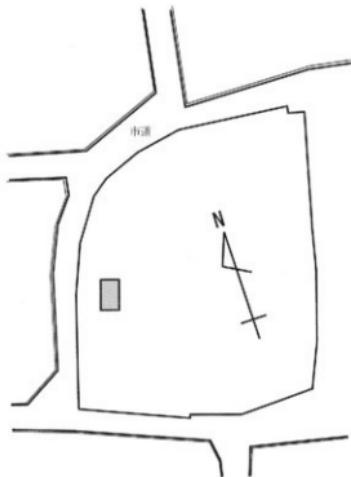


図23 調査位置図 ($S=1/400$)

第7章 田辺遺跡



図24 調査地位置図

2005-1次調査

- ・調査対象地 柏原市田辺 1-380-1/380-2/382-1/-2/384-1/-2
385-2/355-21
- ・調査期間 平成 17 (2005) 年 7 月 5 日
- ・調査面積 6.00 m²/1,936.47 m²
- ・調査担当者 石田成年・島内洋二

対象地は、南から北から張り出す台地上に位置する。調査地内に 1.5×1.0m のトレンチを 4箇所で設定。地表面下より 90cm まで掘削した。地表面下約 50cm で地山を検出。遺構・遺物とも認められなかった。



図25 調査位置図 (S=1/1000)

2005-2次調査

- ・調査対象地 柏原市田辺 1-9-7
- ・調査期間 平成 18 (2006) 年 3 月 9 日
- ・調査面積 2.25 m²/434.57 m²
- ・調査担当者 石田成年・島内洋二

対象地は、おいなり古墳とも呼ばれる初吉稻荷社の道を挟んだ向かい側である。墳丘状に盛り上がった地形であるなどから古墳であったと推定され、大正時代には巨石が存在していたようである。田辺史伯孫との謂れを持つが、詳細は不明である。

当地は台地上にあるため削られている可能性があり、上層に遺物が含まれる可能性を意識して調査した。対象地南部に 1.5×1.5m の調査区を設定。現地表面より約 60cm 下まで掘削した。約 50cm 下で地山を確認。遺構・遺物とともに、認められなかった。

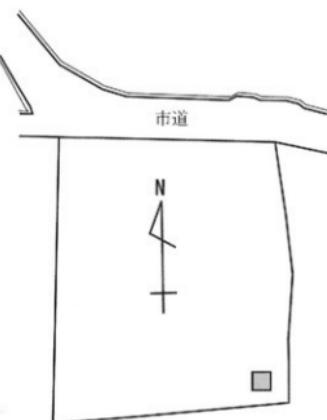


図26 調査位置図 (S=1/400)

付章 田辺廃寺



図27 調査地位置図

2005-1次調査

- ・調査対象地 柏原市田辺1-2046
- ・調査期間 平成17(2005)年12月17日～平成18(2006)年3月31日
- ・調査担当者 石田成年・島内洋二

はじめに

当地は、田辺1丁目の春日神社境内に所在する田辺廃寺である。田辺周辺の有力氏族であった田辺史氏一族が建てた氏寺と推定され、1971(昭和46)年には大阪府教育委員会によって発掘調査が行われた。^(註1)東西に塔を持つ薬師寺式伽藍配置の古代寺院で、創建時期は7世紀末から8世紀初頭と考えられる。創建時期の瓦が金堂跡・西塔跡を中心に出土しており、東塔跡からは8世紀末の瓦が多く出土する事から、金堂・西塔→東塔の順に建立・整備が行われたと考えられている。その後焼失するも、金堂だけは再建されて室町時代まで存続していたようである。当神社の創設時期や由来の詳細は不明であるが、『河内鑑名所記』や『河内名所図絵』などに記述が見られることから、江戸時代には既に存在していたようである。

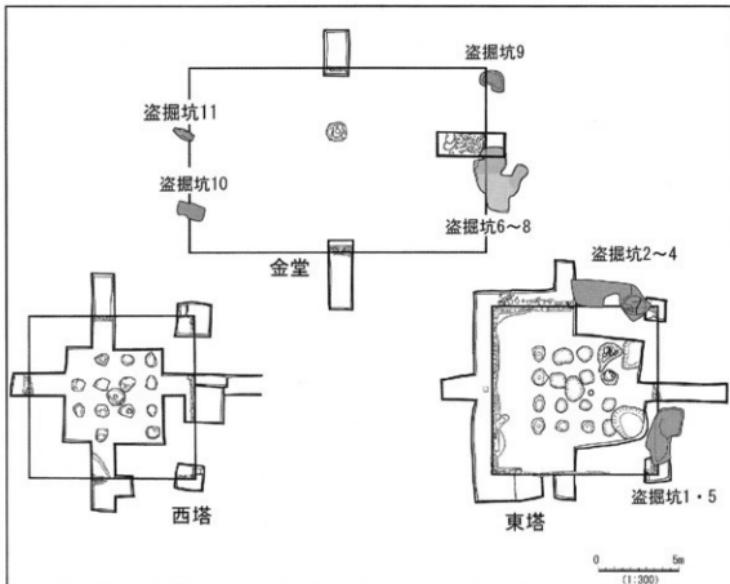


図28 調査位置区 (S=1/300)

本調査は、2005 年末に発覚した盗掘被害状況把握に伴う田辺庵寺の調査である。盗掘は、金堂跡と東塔跡にまで及んでいた。被害の状況を確認するために文化庁及び大阪府教育委員会の指導の下、盗掘孔内の調査を行った。新たにトレンチを設定することなく、被害状況の把握を主目的とした。今回は盗掘状況及び遺構の残存状況について報告する。盗掘坑内から出土した瓦等の遺物については改めて報告する予定である。

調査結果

①東塔跡

盗掘は東塔跡の東側で、地表面が不自然に盛り上がった状態で発見された。多量に瓦片が掘り返されており、その数は3 コンテナを数えた。樹木の落葉により地表面が隠れた状況であったため、盗掘の範囲が確認出来なかつた。そのため落葉の除去作業から行った。地表面が見えたところで、大きく東側と北側に盗掘坑がある事が確認できた。その後、表面のみを精査して範囲を確定し、盗掘坑内ののみの調査を行つた。盗掘孔内は掘り返した土で犯行を隠すように埋め戻されており、それらを再度掘削し被害の状況を調査した。

盗掘坑は大きく 2 箇所で掘られており、北東部及び南東部で確認できた。どちらも、1971 年に行われ

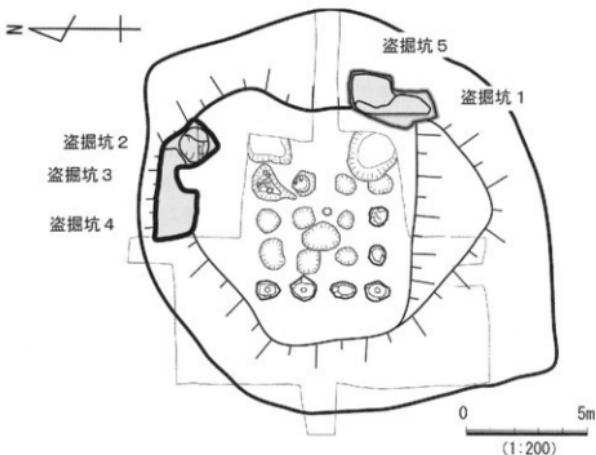


図 29 東塔跡被害状況図 (S=1/200)

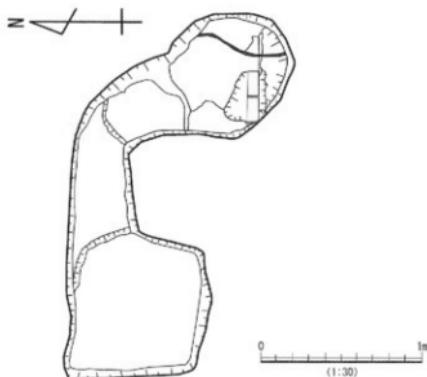


図30 盜掘坑2～4平面図 (S=1/30)

た大阪府教育委員会の発掘調査で設けたトレーンチの延長線上にあり、基壇部の損傷が懸念された。北東部では東西約5mにわたり盗掘されていた。おそらく数度に分けて掘削されたものと思われ、3個の盗掘坑を検出した。

盜掘坑3は埋め戻された土が若干縮まつておらず、盜掘坑2・4に先行して掘られたものと思われる。底部は凹凸が激しく丁寧に掘られた様子では無かった。すぐ南側に樹木が生えているためか掘削範囲も小規模であった。そのすぐ西側の盜掘坑4ではさらに大きく掘削されており、堆積基壇の損傷が心配された。しかし、基壇縁辺部の検出面まで掘削は至ってなかった。以前の調査では、この位置よりすぐ西側で雨落ち遺構が検出されたが、今回は確認出来なかった。現位置よりも南側に位置するか下層にあるものと思われる。盜掘孔2・3、特に盜掘坑4は底部が赤く変色しており焼土が多く出土した。東塔が焼亡した際の痕跡であろうか。

盜掘坑2では、地表面より約30cm下から2個の壙の抜取り跡が検出された。盜掘坑4より南側、基壇縁辺部方向に掘り進めている事から、盜掘坑は3→4→2の順に掘られたと思われる。この事から、確実に壙もしくは基壇縁辺部に狙いをつけて掘削している状況が窺えた。盜掘坑2・4ともに、以前の大坂府教育委員会の発掘調査で設けたトレーンチに接する箇所で、断面にシートが確認できた。確実に以前の調査の位置まで掘削を行っている。

東南部では、約3.5×1.0m程の盜掘坑を検出し、2個の土坑が掘られていた。盜掘坑1では地表面が壅んでおり、明らかに掘り込まれた状況が見られた。東西に半掘した際、断面では盜掘坑5の上から盜掘坑1が掘られており、盜掘坑5の埋土の方が若干縮まつた状態であった。その事から、盜掘坑5→1の順に掘られたと思われる。数回に分けて掘削した際に生じたズレのためか、底部に取り残されるよう

に塙が1個残存していた。東西に約1.0mの盜掘坑5を掘り、基壇縁辺部（塙積基壇）の位置を確認後に塙を抜いて埋め戻している。盜掘坑1では、確實に基壇端部の位置に絞って南北に掘削したようである。断面に塙積み跡が残っており、確認できるだけで26個分の塙の跡が検出された。出土した塙は数点を数えるのみであるから、断面に検出された塙積み跡からほとんどの塙を持ち去ったのは明白である。壁面は地山である黄褐色粘土で、以前の調査で報告されているように地山を削りだして基壇の形状を整えている。地表面下より約1mまで掘削されていたが、基壇部の最底部であるかは確認できなかった。しかし、最下部では幅が30cmよりも一回り大きい正方形と思われる塙が残存しており、基壇の最下部に使用された可能性が考えられる。

基壇を形成する塙が持ちされた事により、大きく造構は破損されていた。しかし、基壇を形成している地山に関してはほとんど削られていなかった。そのため塙積の方法に関して新たに確認する事が出来た。塙を積み上げていく際、2段目以降は粘り気の強い地山の黄褐色粘土を厚さ1~2cmで塗りつけ、

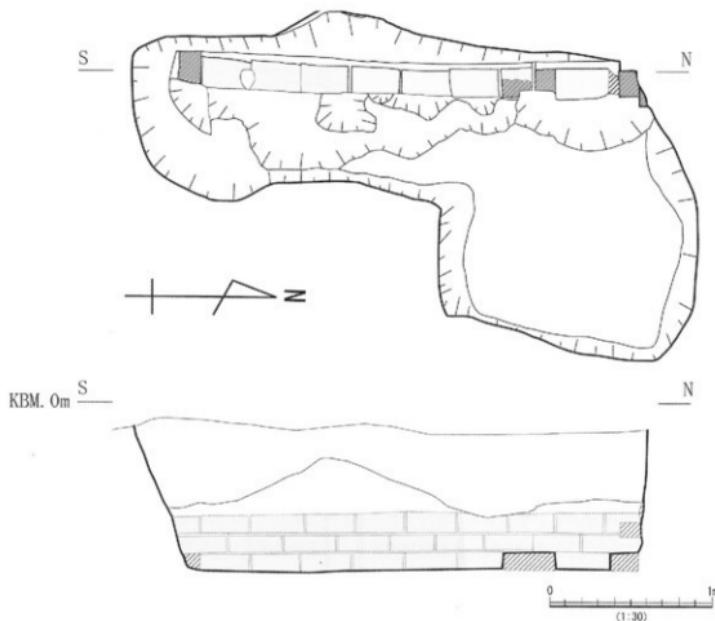


図31 盜掘坑1・5平面図及び立面（模式）図 (S=1/30)

その後埠を置くといった現在の煉瓦積（長手積）と同じ方法を行っている。おそらく、不揃の埠を積み上げていく上で生じる高低差を修正するためと考えられる。今回の盜掘坑内の底部に残された埠にも約2cmの粘土が貼り付いた状況で見られる事から、横に並べる際も粘土を用いて接着面に塗りつけていた可能性がある。

②金堂跡

東塔跡の調査終了後に、当地内に他の被害が無いか金堂跡及び西塔跡の樹木落葉等の除去作業を行った。その際、金堂の東側と西側で盜掘坑を確認した。表面を精査した際、さらに北東部にも盜掘坑を確認した。埋土内の落葉の状態や埋土の締まった状態から、東塔跡よりも以前に掘られていたと思われる。

大きく4箇所で土坑を確認した。地表面下約20~50cmほど掘削している。東塔跡の盜掘坑に比べると掘削深度は浅く、土坑1個単位の範囲も狭い。残存状況が良くないためであろうか。しかし、以前の調査で設けられた東側調査トレンチのすぐ南側では南北約4m、東西約3mの範囲を掘削されていた。金堂跡は以前の調査で瓦積基壇である事が確認されているが、盜掘深度が浅いため今回検出には至らなかった。西側の盜掘孔10・11はともに掘削深度は浅く、これらも基壇の縁辺部を確認出来なかつた。しか

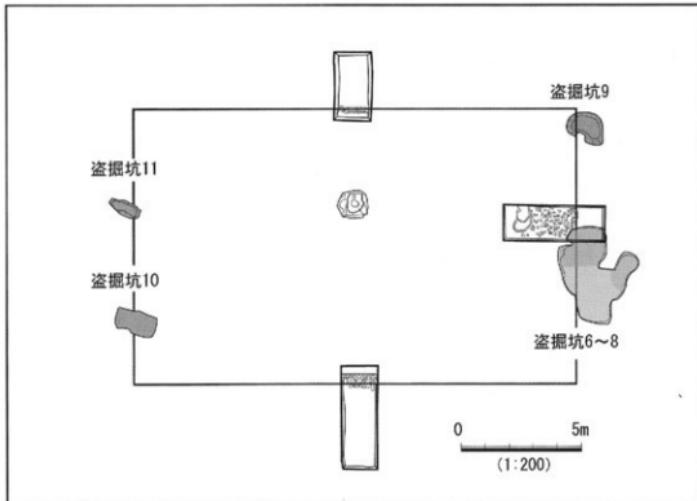


図32 金堂跡被害状況図 (S=1/200)

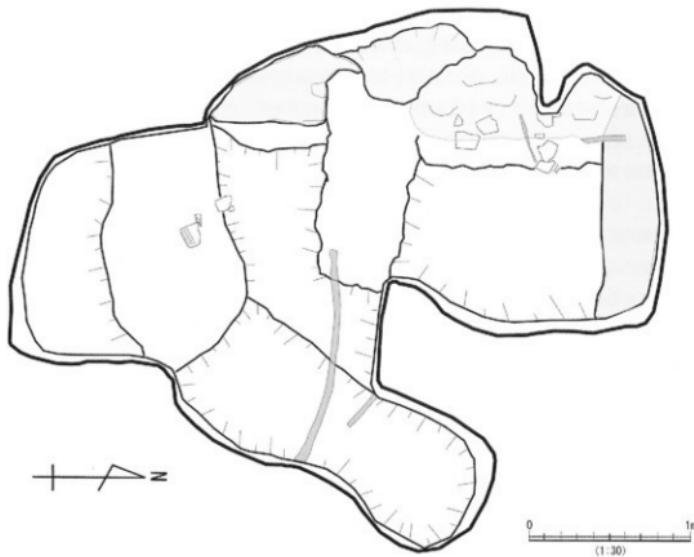


図33 盗掘坑6～8平面図 (S=1/30)

し、いざれの盗掘坑も基壇縁辺部ならびに基壇隅部を探るように掘削しており、全ての盗掘坑が推定される基壇縁辺部上にかかる。遺構が検出される面までは掘削されておらず、金堂跡では瓦を持ち去る事を目的として、掘られたのであろうか。

東側では、以前の調査トレンチに接する位置で検出された。盗掘坑6・8は掘削深度が地表面下より約30～40cmであり、基壇の検出には至らなかった。しかし、盗掘坑8の西側では地山起源の包含層を確認、瓦片が平らに並ぶ状態を検出した。瓦積ではなかったが、これより下層で瓦積基壇が検出される可能性が高い。盗掘坑7では推定される基壇縁辺部より東側に位置し、樹木を避けるように北東方向に向かって掘削されていた。掘削深度は盗掘坑6・8とほぼ変わらなかったが、瓦の出土は少なかった。

基壇北東隅部を狙ったと思われる盗掘坑9では、地表面下約30～40cmまで掘削されている。遺構の残存は確認できなかったが、盗掘坑8と同様に地山起源の包含層が確認出来た。検出面より下層で、遺構が残存しているものと思われる。

盗掘坑10は東側の盗掘坑より埋土が繰まっており、盗掘坑6～9に先行するものと思われる。掘削深度は浅く推定される基壇縁辺部に位置するが、土取りの可能性も否定できない。

盜掘坑 11 も、盜掘坑 10 と同様に掘削深度は浅く遭構及び遺物を持ち去ることを目的として掘られたかは判断がつかない。土が掘り返されたままの状態で、今回の盜掘坑の中では 1 番新しく掘られている。但し、盜掘坑 10・11 は道路に近く、人目を気にしたため掘削深度が深い可能性がある。盜掘坑 9 も同様に道路に面した位置にあり、そのため掘削範囲が狭いのであろうか。盜掘坑 10→9→6→8→11 の順で掘られたと思われる。盜掘坑の大きさが徐々に大きく掘られていったおり、金堂跡より奥に位置し人目に付かない東塔跡では、さらに深くまで盜掘した様子が窺える。

出土遺物

盜掘坑内に埋戻された土からは、多量の瓦が出土した。埋戻し土内からの出土であるが掘った直後に埋戻している状況から、ほぼ原位置を保っていると思われる。現在調査中であるためここでは、概要を報告するのみとし、後日あらためて遺物編を報告予定である。

金堂跡からは、平瓦の叩き目に有軸線杉文や格子文が見られるものや棒巻き工法で作られたと思われる布目のある瓦が出土している。東塔跡では、平瓦は縄目の叩きや布目が残る一枚造りのものが多い。ベンガラと思われるものが付着した瓦も数点出土している。軒平瓦にも付着していることから、おそらく軒先の蓋板や樽先に塗られたベンガラが付いたと思われる。軒瓦は約 20 点確認しているが多くが破片である。軒丸瓦は東塔跡側からの出土はほとんどで、いずれも二重巻線を伴う单弁の蓮華文で 8 世紀末頃に比定される瓦である。金堂跡からは、創建瓦と思われる軒丸瓦の破片が出土している。軒平瓦は均整唐草文で、数点の出土を見るだけである。金堂跡から出土した 1 点のみ中世以降の瓦で、他は全て東塔跡からの出土した古代瓦である。

平瓦の一部にベンガラと思われる朱色が付着した瓦片が 17 点出土している。そのうち、瓦当面を持つ軒平瓦が 1 点、凹凸面の成形方法からおそらく軒平瓦と思われるものが 2 点出土している。ベンガラが付着している事から、これらは軒先に飾られていた可能性が高い。瓦当を持つ軒平瓦は布目压痕や縄目叩目などをナデ消している。しかし、その他の瓦には布目や叩き目が見られ、ベンガラの付着していない平瓦と同様の作り方をしている。そのため、平瓦を 2 枚重ねて軒先に噴かれていた可能性が考えられる。出土位置は、東塔跡と金堂跡両方から見つかっており、どちらも柱や樽先等に朱（ベンガラ）塗りが施されていた事を示唆している。

そのほかに、壇や釘、土器片が出土している。壇は 1 点須恵質のものが出土している。釘は約 20 点出土している。土器片は多くが細片であるが、縁軸のかかった土器も出土している。出土した遺物の中に焼土が出土しており、その中に壁面を持つものが多く含まれていた。これらについては以前に報告したが、ここでも簡単に概要を述べておく。^(注2)

壁土と判断できるものの中で、白土が確認できるものが約 50 点出土した。うち東塔跡出土のものが 3 点したのみで、多くが金堂跡からの出土であった。ベンガラと思われる朱色が付着している壁土が 1 点だけ出土している。若干緩やかに湾曲している事から、柱等の建具に接する面である可能性が高いものと思われる。荒土層の上に極薄い層、その上に白土層、ベンガラ層が塗られている。断面では、荒土層が 2 層確認できるものの第 1 層と第 2 層に大きな違いは見られない。白土層の上に朱色が塗られていることから、壁画の可能性も考えられたが、法隆寺や上淀庵寺等から出土している壁画と比較すると、荒

土層や中土層の上に厚みが約1～5mmの砂質の表土層があり、その上にキャンバス面となる白土が塗られている点で異なっており、白土層の直下にスサが見えていることから、壁画では無いと判断した。

白土付着の壁土は、主に2層と3層のものが確認できた。白土層は薄いものはで1mm以下、厚いもので2～3mmにはほぼ均一に塗られている。第1層は、薺スサを多く含む層で、粘土分の多い土を使用したと思われる。荒土層に該当する部分である。第2層は、長いもので3cm以上の薺スサを使用し、2～3mmの長石などが含まれ、よりスサの量が多い。厚みは1cm前後である。中土層。第3層は、極薄く伸びられた層で、若干スサを含む。但し、非常に薄い事ため、層として塗られたかは不明である。2層のものは中土層がなく、荒土層の上に、極薄い層（第3層）、その上に白土を施している。一部端部と思われる壁土には、荒土層・中土層・荒土層・第3層・白土層といったものも見られた。場所によって厚みが変化する場合には、当然壁土にも変化を持たせていたと思われる。

まとめにかえて

今回、金堂・東塔跡で大きく盗掘された事が判明した。数度に分けて盗掘されており、遺物も相当数持ち去られたのは真に遺憾である。特に東塔跡の基壇を形成する壇が大量に抜き取られていた。このような事態を受けて、2006年3月15日には、被疑者不詳のまま被害届ならびに告発状を大阪府柏原警察署に提出、同警察署員による現場検証が行われた。同年3月18日には、事の重大性を鑑みて近隣住民の方々に現地を公開し、調査の経緯と現状の報告を行った。なお、今回被害にあった箇所は現状維持を優先に、調査終了後埋め戻しを行った。金堂跡北側の道路に面した箇所では、景観を損ねないように竹等を用いて柵の設置を行った。今後、このような行為が繰り返されない為にも近隣住民の方々の協力をお願いしたい。

註：引用文献

註1：大阪府教育委員会『田辺廃寺跡発掘調査概要』1972

註2：島内洋二「資料紹介 古代の壁土～田辺廃寺出土・壁土～」『柏原市立歴史資料館報18』2006

図：引用文献

図28：大阪府教育委員会『田辺廃寺跡発掘調査概要』1972に加筆

図29：大阪府教育委員会『田辺廃寺跡発掘調査概要』1972に加筆

図32：大阪府教育委員会『田辺廃寺跡発掘調査概要』1972に加筆

参考文献

大阪府教育委員会『田辺廃寺跡発掘調査概要』1972

奈良文化財研究所『山田寺発掘調査報告』（奈良文化財研究所学報 第63冊）2002

山田幸一『日本壁』学芸出版社 1983

山田幸一『壁』ものと人間の文化史 45 法政大学出版局 1981

庭瀬町教育委員会『若草伽藍跡西方の調査』2004

斑鳩町・斑鳩町教育委員会『史跡法隆寺旧境内の調査』2006
飛鳥資料館『キトラ古墳と発掘された壁画たち』奈良文化財研究所 2006
大阪府立近つ飛鳥博物館『古代の工房 豊かなる都・寺のきらめき』2006
淀江町教育委員会『上淀庵寺と彩色壁画 概報』吉川弘文館 1992

[付記]

調査の際、次の方々に協力・助言を頂いた。末筆にてお礼申し上げます。(順不同・敬称略)

浅田 彰 荒木浩司 栗田 薫 市本芳三 上原真人 大脇 潔 岡 一彦 岡本敏行 甲斐弓子
北野耕平 黒田慶一 駒井正明 近藤康司 鹿野 垣 高井 畏 百瀬明徳 平田政彦 本間元樹
桥本 哲 三好 玄 森 郁夫 山口誠治 山下隆次

図 版



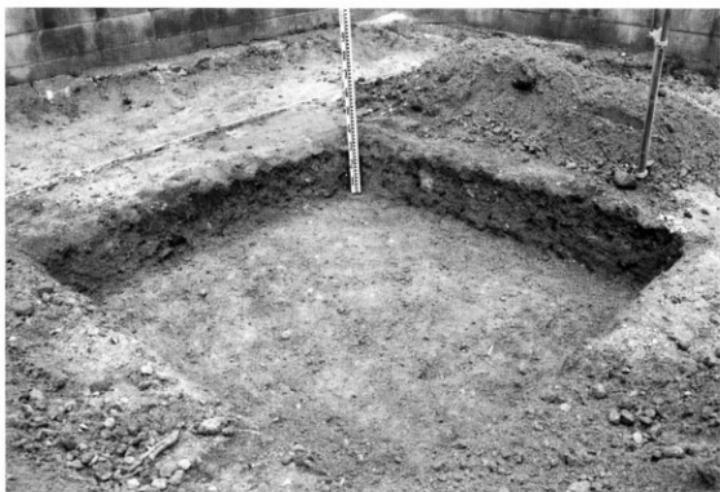
図版1 大県遺跡2005－1次調査 調査区全景（北東から）



図版2 大県遺跡2005－1次調査 調査区掘削状況（南西から）



図版3 大県南遺跡2005－2次調査 調査区全景（北東から）



図版4 大県南遺跡2005－2次調査 調査区掘削状況（南西から）



図版5 大県南庵寺2005－1次調査 調査区掘削状況（北東から）



図版6 大県南庵寺2005－1次調査 注穴1検出状況（西から）



図版7 太平寺遺跡2005－1次調査 調査区全景（南東から）



図版8 太平寺遺跡2005－1次調査 調査区掘削状況（東から）



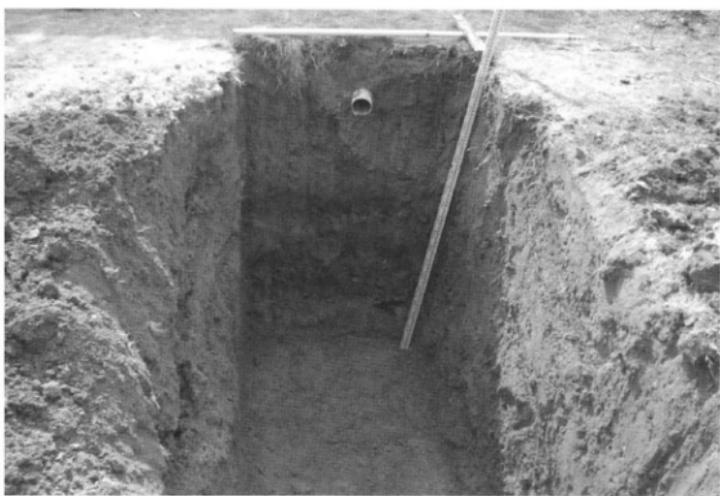
図版9 安堂遺跡2005－4次調査 調査区全景（東から）



図版10 安堂遺跡2005－4次調査 調査区掘削状況（南から）



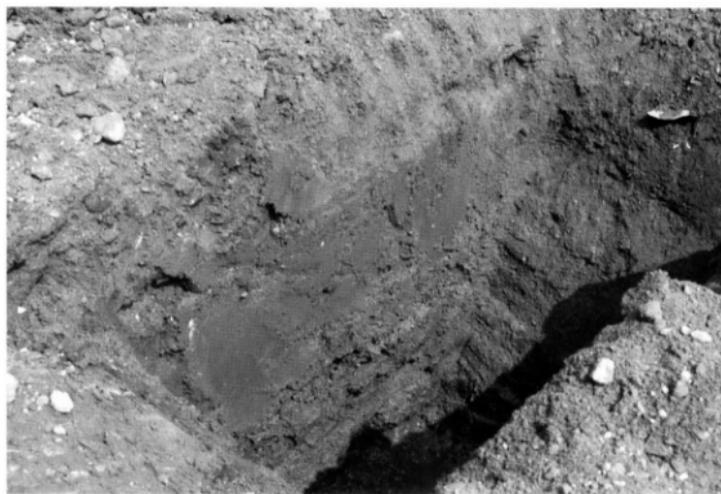
図版11 安堂遺跡2005－6次調査 調査区全景（南西から）



図版12 安堂遺跡2005－6次調査 調査区掘削状況（北から）



図版13 太平寺廃寺2005－2次調査 調査区全景（南東から）



図版14 太平寺廃寺2005－2次調査 調査区掘削状況（南東から）



図版15 田辺遺跡2005－2次調査 調査区掘削状況（南東から）



図版16 田辺遺跡2005－2次調査 調査区北壁（南から）



図版17 田辺廃寺2005－1次調査 盜掘坑2（北から）



図版18 田辺廃寺2005－1次調査 盜掘坑1・5（南東から）



図版19 田辺廃寺2005－1次調査 塹積み基壇目地残存状況（東から）



図版20 田辺廃寺2005－1次調査 盜掘坑5 塹残存状況（南東から）



図版21 田辺廃寺2005－1次調査 盗掘坑6～8（東から）



図版22 田辺廃寺2005－1次調査 金堂跡出土 壁土

報告書抄録

ふりがな 書名	かしわらしないいせきぐんはつくちょうさがいほう 柏原市内遺跡群発掘調査概報						
副書名							
巻次							
シリーズ名	柏原市文化財概報						
シリーズ番号	2006-II						
編著者名	島内洋二						
編集機関	柏原市教育委員会						
所在地	〒582-8555 大阪府柏原市安堂町1-43 電話072-972-1051(代)						
発行年月日	平成19(2007)年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
おおがた 大県	ひらの 半野2丁目	27221 2005-1	OG 34° 35' 37"	135° 38' 01"	H17. 8. 22 H17. 8. 22	4.00	個人住宅
おおがたみなみ 大県南	たいへいじ 太平寺2丁目	27221 2005-1	OGM 34° 35' 07"	135° 37' 57"	H17. 5. 27 H17. 5. 27	5.00	共同住宅
	おおがた 大県4丁目	27221 2005-2	OGM 34° 35' 19"	135° 37' 57"	H17. 9. 15 H17. 9. 15	4.00	個人住宅
	おおがた 大県4丁目	27221 2005-3	OGM 34° 35' 18"	135° 37' 58"	H17. 11. 14 H17. 11. 14	0.75	個人住宅
おおがたみなみはいじ 大県南庵寺	おおがた 大県4丁目	27221 2005-1	OGMT 34° 35' 18"	135° 38' 00"	H17. 12. 1 H17. 12. 2	10.0	個人住宅
たいへいじ 太平寺	たいへいじ 太平寺2丁目	27221 2005-1	TG 34° 35' 05"	135° 37' 54"	H17. 5. 2 H17. 5. 2	3.00	店舗
	たいへいじ 太平寺2丁目	27221 2005-1	TGT 34° 35' 00"	135° 37' 55"	H17. 4. 8 H17. 4. 8	0.33	個人住宅
	たいへいじ 太平寺2丁目	27221 2005-2	TGT 34° 35' 00"	135° 37' 58"	H17. 5. 9 H17. 5. 9	0.60	個人住宅
あんどう 安堂	たいへいじ 太平寺1丁目	27221 2005-1	AD 34° 34' 53"	135° 37' 44"	H17. 6. 21 H17. 6. 21	4.00	倉庫他
	あんどうちょう 安堂町	27221 2005-2	AD 34° 34' 49"	135° 37' 51"	H17. 7. 28 H17. 7. 28	4.00	分譲住宅
	あんどうちょう 安堂町	27221 2005-3	AD 34° 34' 49"	135° 37' 56"	H17. 4. 18 H17. 8. 30	2.00	個人住宅
	あんどうちょう 安堂町	27221 2005-4	AD 34° 34' 44"	135° 37' 53"	H17. 9. 21 H17. 9. 21	2.00	個人住宅
	あんどうちょう 安堂町	27221 2005-5	AD 34° 34' 43"	135° 37' 55"	H17. 10. 31 H17. 10. 31	0.08	個人住宅
	あんどうちょう 安堂町	27221 2005-6	AD 34° 34' 43"	135° 37' 54"	H17. 11. 4 H17. 11. 4	3.75	個人住宅
たなべ 田辺	たなべ 田辺1丁目	27221 2005-1	TB 34° 33' 42"	135° 38' 21"	H17. 7. 5 H17. 8. 1	6.00	宅地造成
	たなべ 田辺1丁目	27221 2005-2	TB 34° 33' 56"	135° 38' 26"	H18. 3. 9 H18. 3. 9	2.25	個人住宅

柏原市内遺跡群発掘調査概報

平成17（2005）年度

発行：柏原市教育委員会
大阪府柏原市安堂町1-43
発行日：平成19（2007）年3月31日
印所：近畿印刷センター

